



6回
シリーズ

公民館等職員研修

～「種」から住民とともに育てる事業を通した人づくり～

R6. 6. 27(木):いわみーる

第3回 「戦略的な人づくり3～主体性を高めるポイント～」

【アイスブレイク】

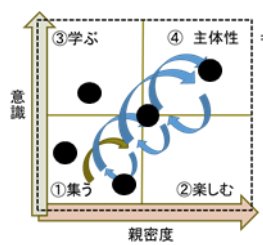


3人組をつくり、「ピザじゃんけん」「猫たたき」をしました。「ねこ」と言われたら、一番上の人が下の手めがけて「パシッ」!

【情報交換】

(1) 進捗状況紹介

◎今巻き込みたい協力者はどのあたり?根拠は? ◎シート③をもとに紹介



＝自分の地域のために行動しよう

- ・実行委員として集められている人たちを、どう“楽しむ”へ引き上げるか
- ・トップの方のやりたい気持ちは最初から強い(●は、協力者の位置)

(事業概要、協力者について、不安なこと、上手くいきそうなこと、相談したいことなど)

- ・学生の参加が難しくなった
- ・中学生には達成感を味わってほしい
- ・協力者自らが楽しむ時間をつくりたい
- ・若い人の意見を聞きたい
- ・チラシすでに完成・・・



【説明】

(2) 評価について

・評価の目的
公民館は、当該評価を行うとともに、その結果に基づき公民館の運営の改善を図るための必要な措置を講ずるよう努める。(社会教育法 第32条)
○事業の改善や充実、事業の無駄を省く、効率化
○協力者へのかかわりの改善や充実、主体性を高めるため
⇒評価は改善のため

	事業についての評価	協力者について(人づくり)の評価
目的	事業の改善や充実 事業の無駄を省く 効率化	協力者へのかかわりの改善や充実 主体性を高めるため
対象	事業の参加者	事業の協力者
タイミング	当日	事前 事中 事後
評価方法	アンケート(選択肢 自由記述 紙 二次元コード)	観察 二次元コード インタビュー

・人づくりの評価 参考例

○アンケートの利点
・全員から回答を得やすい
・評価項目
期待の裏返し
意識変容を促すきっかけ
○項目
期待する姿をもとにする
負担にならない項目数
時期によって項目を変える
項目ではキャッチできないこと(自由記述)

事業を計画しているとき	事業を実施しているとき	事業の振り返り
1. 楽しんで楽しんでいる人が多かった。 ① 楽しんで楽しんでいる人が多かった。 ② 楽しんで楽しんでいる人が多かった。 ③ 楽しんで楽しんでいる人が多かった。	みんな楽しんで協力して事業ができた。 ① みんな楽しんで協力して事業ができた。 ② みんな楽しんで協力して事業ができた。 ③ みんな楽しんで協力して事業ができた。	みんな楽しんで協力して事業ができた。 ① みんな楽しんで協力して事業ができた。 ② みんな楽しんで協力して事業ができた。 ③ みんな楽しんで協力して事業ができた。
2. 楽しんでいなかっただけで自分の意見を出さなかった。 ① 楽しんでいなかっただけで自分の意見を出さなかった。 ② 楽しんでいなかっただけで自分の意見を出さなかった。 ③ 楽しんでいなかっただけで自分の意見を出さなかった。	楽しんでいなかっただけで自分の意見を出さなかった。 ① 楽しんでいなかっただけで自分の意見を出さなかった。 ② 楽しんでいなかっただけで自分の意見を出さなかった。 ③ 楽しんでいなかっただけで自分の意見を出さなかった。	楽しんでいなかっただけで自分の意見を出さなかった。 ① 楽しんでいなかっただけで自分の意見を出さなかった。 ② 楽しんでいなかっただけで自分の意見を出さなかった。 ③ 楽しんでいなかっただけで自分の意見を出さなかった。
3. 参加者の立場に立って計画することができた。 ① 参加者の立場に立って計画することができた。 ② 参加者の立場に立って計画することができた。 ③ 参加者の立場に立って計画することができた。	参加者の立場に立って計画することができた。 ① 参加者の立場に立って計画することができた。 ② 参加者の立場に立って計画することができた。 ③ 参加者の立場に立って計画することができた。	参加者の立場に立って計画することができた。 ① 参加者の立場に立って計画することができた。 ② 参加者の立場に立って計画することができた。 ③ 参加者の立場に立って計画することができた。

○アンケートの活用
かかわり方を変更する
打ち合わせ資料に反映

【演習】

(3) 事業計画立案

「事業を通した人づくりシート③」を作成する(研修協力者やセンタースタッフに相談しながら進める)



事業名	目的	
	短期	長期
事業の特色		
内容		
ねらい		
ねらいを達成する方法		
評価方法		
広報	事前	事後
協力者		役割
ねらい		
どのようにして実施する?		
どのようにして評価する?		
実施の留意点		

事業のねらい
・今後も事業として定着させたい。
・若い人をまちづくりに参画させたい。
・中学生が考える地域活性化。
・参加する子どもたちに非日常の楽しさを。
・部会の活動の認知度をあげる。

どうやって主体性を高める?
・やってみたいこと、楽しいんじゃないかな、子どもたちが喜びを出してをもらい、その中で実現可能なものを厳選する。
・役割を任せる。
・やってよかったと思ってもらう。
・異世代の方と一緒に準備する。

【説明・演習】

(4) 主体性を高めるポイント

・協力者のやる気(主体性)を引き出す方法を考えよう!
1. エピソード(エピソードを読んで、自分ならどうかかわるか考える。)
多世代交流と地域活性化を目的に、夏祭りを開催。多くの協力者と実施できそうだが1回目の会議を終えた感想は、お互いに心理的距離があるように。雰囲気をよくするために、あなただったらどんなかかわりをしますか?

出てきた意見
・個別に伝える
・自己紹介
・決起集会♪
・少人数グループで話し合い
・担当を最初から決める

2. 心がまえ(大前提)
○協力者が(親密度と意識の図で)どの位置にいるのか見極める
○引き出しを増やそう
○正解は存在しない
⇒一緒に考えていきましょう

3. 巻き込み方10

① 普段の会話	関心をもっているよ あいさつ 雑談力
② 聴く	とことん聴く コーヒータイム 言いたくなる環境
③ 得意を生かす	自分が出せる 言葉と本音 その気になってもらう
④ 体験する	活動 プレ やってみる 一緒に 思いの共有
⑤ プレゼント	打ち上げ 賞賛(もの、広報) 内容と渡し方

⑥ 会議の工夫	議題 情報 座席 ホワイトボード 事前、事後の共有
⑦ 目的の確認	目的を共有 スケジュールを示す 見通しをもつ
⑧ 刺激を与える	マンネリ打破 コラボ 先進事例 視察 講師
⑨ 任せる	自由度 役割を拡大 難易度 信じる ケア
⑩ 適切な評価	行動の強化 感謝 伝え方 言いにくいことも

*進捗状況紹介で示した図で、協力者の現在地を見極め、意図的なかかわりをしていく。

【説明】

(5) 事業記録について

事業の経過を記録する目的

- ① 事業をふり返るため(意義や価値についての整理)
- ② 情報発信で活用するため(広報の充実、地域の活性化)
- ③ プレゼンの資料素材を集めるため

どんなことを記録する?

- ① 写真や動画/事業前・事業準備中・事業後
- ② 感想/アンケート、インタビュー
- ③ 募集チラシ
- ④ 運営資料/会議資料、レジメ
- ⑤ 事後の広報など
- ⑥ 意図的なかかわりがわかるもの



【情報交換】

(6) 個別作戦タイム

事業実施に向け、研修協力者に相談しながら、困りごとや悩みごとを解消していく。

- ・これからの活動の足掛かりになるようにするには...
- ・思い描いている事業を協力者に理解してもらうには...
- ・事業に参加してくれる子どもの感想も聞きたい。子どもでもできるアンケートの取り方を工夫したい。...etc

受講者アンケートから(一部抜粋)

- ・主体性の高め方10(親密度・意識)についてのポイントがわかったので、今後の事業に役立てたい。東部の研修状況・内容・意見の情報があれば良いと思った。
- ・とても楽しく研修を行うことができた。少人数の良さが出ているなと感じた。主体性を高めるポイントはとても参考になった。アドバイスも良く参考になった。